



発行 高知市市民活動サポートセンター
企画・編集 特定非営利活動法人 NPO高知市民会議

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

創刊号

2003年 10月 10日

あなたの まちづくり活動を 応援します。

私たちの住む高知。この街が居心地のよい街でありつづけてほしい。みんなが住んでいてよかったと思える街であってほしい。街は生き物。緑や建物。水辺やそよ風。笑い声や仕事の音。街の縦糸に横糸を紡ぐ人の動き。

いつまでも自分の住むまちのファンでありたい。まちを楽しむ仲間（ファン）でありたい。

コミュニティを大切にしたいまちづくり活動をすでに始めている人たちや、まちづくりのおもしろさに気づき、参加の第一歩を踏み出す仲間たちに大きなエールを送ると同時に、市民どうし、市民と行政がうまく繋がればもっと楽しい居心地のよいまちづくりができるかもしれない。そんな思いから、まちづくり活動を資金面で支援する公益信託「高知市まちづくりファンド」が生まれました。「まちファン」はそんな思いを大切に、「まちづくりファンド」のニュースをお知らせしていきます。



contents

- 2 「高知市まちづくりファンド」ができました。
運営委員紹介
- 4 公開審査会の流れ
審査結果表
- 5 「まちづくりはじめの一步」コース
助成先団体
- 6 「まちづくり一歩前へ」コース
応募団体
- 10 公開審査会参加者アンケート
参加者の声
- 12 公開審査会を終えて
今後の予定



公益信託

「高知市まちづくりファンド」が できました。

高知市の各地域に、まちづくりにかかわっている多くの市民がいます。実際に市民が行っているまちづくりには、住みやすい環境づくりだけでなく、人と人との豊かな関係づくりや人づくりまで含まれています。その分野は、自然環境や住環境、福祉、教育、文化、スポーツ、生涯学習など幅広くなっています。

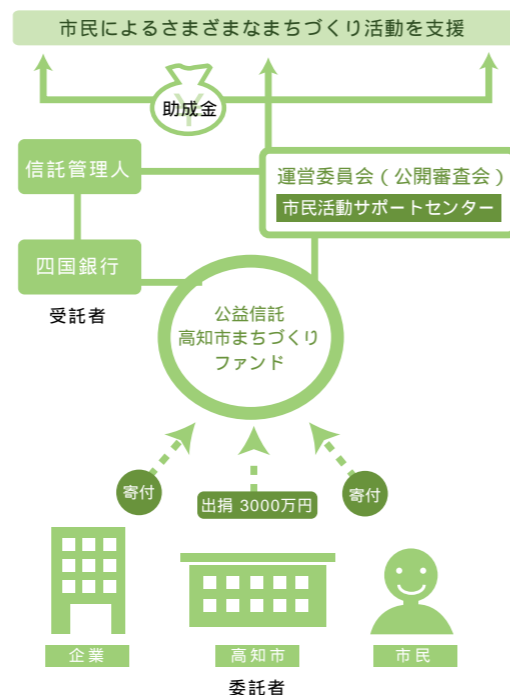
最近、いろいろなボランティアや市民活動に自主的に参加する人が増え、自らが行動し参加することの意義やその楽しさも実感されてきています。まちづくりは、まず自分ができることをやるうところから始まります。ひとりひとりの発意を大切にしながら、市民のまちづくり活動を応援するために、公益信託「高知市まちづくりファンド」ができました。このファンドの運営や助成先の審査は運営委員会が行い、9名の運営委員がボランティアで携わります。

公益信託

「高知市まちづくりファンド」のしくみ

公益信託とは、委託者が財産を一定の公益的な目的のために出捐（しゅつえん）し、受託者（銀行等）がその財産を管理・運営しながら公益活動に助成する制度です。公益信託「高知市まちづくりファンド」は、高知市が、今年4月から施行した「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づいて、まちづくりという公益的な活動を行う市民団体への助成を目的に、四国銀行に3千万円を出捐して創設しました。

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、一定の独立性を保ち、市民活動の自立性を損なわず、市民・企業・行政が支えていくしくみです。市民や企業等からの寄付も募りながら、多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、この助成によってひとりでも多くの市民がまちづくりに参加するきっかけとなるような、運営を目指していきます。



運営委員紹介

運営委員長：卯月 盛夫(早稲田大学教授)
今まで鎌倉市や千代田区で公開審査会に関わりましたので、その反省と経験をふまえて立ち上げをお手伝いすることになりました。試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ高知らしいシステムをつくっていければと考えております。

運営委員：木村 重来(元高知市市民生活部長)
この3月まで高知市に在職し、約10年間まちづくりを担当いたしました。今日はひとりの市民として、また運営委員の立場でみなさん方と楽しく意見交換をしながら審査をさせていただきたいと思っております。

運営委員：田岡 真由美(株 相愛)
国内外のボランティア活動からNPO支援まで、まちづくり活動に公私ともに関わってまいりました。今日はみなさんの熱いメッセージを受けとめ、真摯な気持ちで審査をさせていただきたいと思っております。

副運営委員長：藤塚 吉浩(高知大学助教授)
高知大学で地理学を担当しています。近年では土佐橋地区交通結節点改善事業、中心市街地活性化計画、都市計画マスタープランの策定などに参画しています。多数ご応募頂きありがとうございました。

運営委員：玖波井加代子
(元よさこい高知団体ひとりひとやくボランティアコーディネーター)
高知よさこい団体でボランティアコーディネーターをし、まちづくりへの興味とわきました。このファンドは1回目、委員長以外は私たち委員もみんな1年生です。参加者も委員もお互いに成長しながらファンドを育てていきたいと思っております。

運営委員：増田 和剛(高知中・高等学校教諭)
学校では美術を担当しています。ここ6年ほど、いろいろな人とつながりをつくっていく、まちづくりに関わってきました。いろいろな意味でアート・文化を展開させていくなかで、「夢」をまちづくりの中で生かしていければと思います。

運営委員：海老塚 和秀(五台山竹林寺住職)
今の時代に開かれた寺をつくりたいと思ひ、試行錯誤してまいりました。私はまちづくりというよりは、寺おこしをやってきたと思ひますが、その中で他の運営委員さんとは別の視点でお手伝いできるのではないかと考えています。

運営委員：半田 雅典
(高知県ボランティア・NPOセンター)
民間非営利団体の組織運営支援をしております。いろいろな相談を受けますが、大きな課題のひとつが資金確保です。この機会を資金確保に繋げ、活動をより発展させていただきたいと思っております。

運営委員：堀 洋子(社)高知県建築士会)
普段私たちのやっている事は、ハード面で、まちにいろいろな物をつくるということ。コミュニティに関するまちづくり、またこれからの若い世代へ継承していくようなまちづくりの取り組みに、非常に期待しています。

私たちも お手伝いしています！

四国銀行コメント 株式会社 四国銀行 営業統括部 信託担当
四国銀行は、高知市の施策に沿い、この「まちづくりファンド」の資金を管理・運営し、高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていけるために助成金の給付を行ってまいります。

市民会議コメント 特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 (高知市市民活動サポートセンターの運営主体)
公開審査会が助成金を確保する場だけではなく、運営委員、応募された方、まちづくりに興味のある方々のまちづくり活動に関する交流の場になるように事務局としてサポートしていきたいと思ひます。

今年度の「高知市まちづくりファンド」募集内容は.....

「高知市まちづくりファンド」の助成事業・団体や経費は次の範囲を対象として募集しました。また、助成決定過程の透明性や、団体間の交流・情報交換の場となるように、公開審査会方式（「まちづくりはじめの一歩」コースは書類審査のみ）を取り入れて実施しました。

助成対象団体・事業は

拠 点が高知市内にある構成員3名以上の団体で、そのうち1/3以上が高知市民（高知市に居住、通勤または通学している人）である団体が、自然環境の保全や住環境の整備、福祉、教育、文化、スポーツ、生涯学習など住みやすい環境づくりおよび人と人との豊かな関係の構築や人づくりなど、高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていけるために行うまちづくり活動を対象とします。

助成対象事業経費は

活 助事業費（会場費、通信費、印刷費、旅費、講師謝金など）を対象とし、運営費（人件費、事務局の維持管理費など）は対象外です。

【事業期間】平成 15年 8月 1日～平成 16年 7月 31日

【応募受付】平成 15年 6月 16日～ 7月 10日

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円
(活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成)

審査方法 書類審査で決定します。
助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 活動事業費の3/4以内で、上限30万円。

審査方法 公開審査会において、応募団体は活動の内容について発表をしていただき、公開審査で決定します。

まちづくりファンド 公開審査会の流れ

高知では初めての試みとして、2003年8月2日に公開による審査会を実施しました。応募者や一般の参加者、約80人が集まり、不安や期待が入り交じるなか、各団体がそれぞれ「まちづくり」への熱い想いを伝えました。第1回目の今回は、「まちづくりはじめの一步」コースに5団体、「まちづくり一歩前へ」コースに15団体、合わせて20団体の応募があり、そのうち14団体の事業に助成が決まりました。（詳細は下記結果表のとおり）審査は、それぞれ、次の過程で行われました。

「まちづくりはじめの一步」コース

1 審査

事前の書類審査にて助成団体を選考。公開審査会の場で発表。

2 団体の自己紹介

助成対象となった団体から事業の紹介がされた。



「まちづくりはじめの一步」コース結果表

グループ名	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 第1回大高坂松丸祭実行委員会	5	5
2 つどいの和あざみの	5	5
3 木の丸の里愛好会	48	48
4 あさひのわ	5	5
5 「トマトの会」～食育を考える地域活動栄養士の会	5	5

「まちづくり一歩前へ」コース結果表

発表順	グループ名	活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	活動企画についてもう少し話を聞き、助成が必要か判断したい	社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくい	今回の助成対象として推薦する	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1	平田団地公園愛護会					30	30
2	高神炭焼塾					30	30
3	はっぴーねっと					30	30
4	文化祭あーとたん実行委員会					30	
5	本宮川の水辺と蜚の会					30	30
6	NPO法人 ハート・リンク・コミュニティ					30	30
7	NPO法人 キャリアコンサルタント協会					30	
8	NPO法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう					30	30
9	三里まつり実行委員会					30	
10	きよびっず					30	
11	NPO法人 地域サポート会さわやか高知					30	30
12	NPO法人 ゆうきりサイクル高知					30	30
13	NPO法人 高知こどもの図書館					30	30
14	NPO法人 高知環境文化 21					27	
15	高知演劇ネットワーク・演会					30	

「まちづくり一歩前へ」コース

1 プレゼンテーション

各応募団体、事業内容を模造紙1枚に記載したものをもち、3分以内でプレゼンテーションを行い、加えて3分以内で質疑応答。

2 一次判断

各運営委員が各応募事業についてそれぞれ次の3段階の判断をする。

- a) 助成すべきである。
- b) 内容についてもう少し話を聞き、判断したい。
- c) 社会的に意義のある活動だが、今回の助成にはなじみにくいと判断する。

3 質疑

一次判断で b) c)が多い事業への質疑応答。

4 最終判断 助成事業・金額の決定

各運営委員が6事業を選び助成対象として推薦する。結果、複数の運営委員から推薦された事業が助成先に決定。助成金額は申請額と同額で、減額はなし。

「まちづくりはじめの一步」コース助成先団体



group.1

第1回大高坂松丸祭 高知市開発の祖
「第1回大高坂松丸祭」実行委員会

1998年に「大高坂松丸を考える会」を発足し、学習会・資料集出版などを行ってきた。今回、記念碑移設に伴い松丸祭を立ち上げ、郷土の歴史や松丸を顕彰していきたい。

comment 運営委員（海老塚）

歴史上の人物の評価は各人各様であり、審査会で運営委員の議論的となりました。今後、息の長い松丸祭の開催を通じてわが街の歴史文化に人々の関心を誘うような広がりのある活動を期待します。



group.2

閉じこもらないで、みんなで“和”になって探そ!! 作ろう!! “手作りの作品展”
つどいの和あざみの

泉野小学校「いずみ学級」で手づくりハガキ教室を実施したことから、障害者・高齢者の展示会「手作り文化祭」が薊野でできないかと発案。閉じこもり・引きこもりをなくす、1人でできないことをグループですること何かを見つける、ノーマライゼーションの仲間づくりを目指す。

comment 運営委員（半田）

年をとっても、障害をもって、コミュニティ単位での集まりの場を設ける最初の一步の活動、今後のますますの広がりを期待しています。運営スタッフを増やすなどの組織づくりをし、継続した活動を行ってください。



group.3

住み良い地域づくりをめざして
木の丸の里愛好会

町内会の有志が集まってできた会。池、散歩道の整備、公園づくり等を通じて地域の環境づくりと、人々の親睦交流を図る。親水公園の池の整備にあたり助成応募。

comment 運営委員（木村）

地味な活動をこつこつとなさっておられることに敬意を表します。活動の輪がさらに広がっていくことを期待します。ただ、せっかくの親水公園、ただネットをかぶせるのではもったいないのでは。もうひと工夫されてみては。



group.4

旭街のまちづくり（はじめの一步編）
あさひのわ

独居老人が、隣人にゴミ出しをお願いできるような人間関係・近所づきあい・お互いが助け合えるまちづくりをしたい。まず住民の意識調査をすることで、住民の要求やまちづくりに必要なことを知り、今後のまちづくりへの方向性を探る。

comment 運営委員（増田）

「温故知新」という言葉があるように、数少なくなった古い街並みが残る旭で、現存するモノやヒトを知ることから始め、そこから、後生に残すことのできる大切な財産を発見できるといいですね。



group.5

離乳食教室
「トマトの会」 食育を考える地域活動栄養士の会

離乳期の食習慣は心と体の健康に大きく影響する。正しい食習慣を身につけ、健康な一生を送ってもらいたい。素材の良さを知ることによって地産地消や地球環境への関心も持ってもらいたい。それにはまずお母さんたちにこれら大切さを分かってもらう必要があり、離乳食教室を開催したい。

comment 運営委員（玖波井）

食からまちづくりを考えるという視点が新しい。食から家庭生活を見直し、地域を見つめていくことは大切ですが、地域に広げていくためには、ある程度の講座数が必要で、また、「食=母親」ではなく、父親にも扉を開けばさらに広がると思います。



「まちづくり一歩前へ」コース 応募団体



group.4 文化祭あーとたうん 2003 文化祭あーとたうん 実行委員会

「文化祭あーとたうん」は、前身である「あーとたうん介良」が、介良という狭い地域性から卒業して、より幅広い事業を展開するために生まれ変わったもの。この秋、11月23・24日に介良潮見台小学校を借りて文化祭を行う。今年は大きな変化が一つある。出展者・出演者のみなさんが数多く実行委員会に参加してくれることだ。この事業はすべてがボランティアでまかなっているの、実行委員を募ったら多くの方が就任する事を快諾してくれた。今後とも広い分野を取り込み、取捨選択を行いながら息長く、大きく育てていきたい。

Q&A
Q: 会が大きくなっていることはすばらしいが、地域にこだわった祭りも大事なのではないかなと思う。
A: 3年間の経験の中で、もっと範囲を広めようという声介良地域全体から出てきたので、高知市という、今までより大きな地域性で活動していきたい。

運営委員(海老塚)
介良地区を中心に続けてきた地区文化祭。今後は地域の枠をはずして充実発展させていこうとするもの。でも、祭りは地域コミュニティの中で育まれその独自性が光ります。地域の埋もれた素材を掘り尽くす。そんな地域にこだわった文化創造の視点も忘れてほしくないです。



group.1 公園を拠点とした 地域福祉活動の 活性化を目指して 平田団地公園愛護会

家族ぐるみの参加による良好なコミュニケーションづくりや、地域の連帯感を深めることをねらいに、団地唯一の公共施設である公園でさまざまなイベントを開催している。老人クラブ・公園の利用をしている若い母親クラブ等の団体との連携を密にして活動している。今回の申請には、8月に3日間この公園で開催している、夏休み子ども祭りのほか、こどもの日、敬老の日、クリスマスのイベント経費を計上している。

Q&A
Q: 行事は例年と同じようであるが、今年の特徴として他になにかあるか。
A: いままで町内会費でやってきたが、今後は公園愛護会が受託事業として運営していく予定。また、公園愛護会の会員を募集し、会費をもらうことも考えている。そのことによって、組織が変わることが一番の違い。

運営委員(堀)
町内会活動が停滞する中、積み重ねられたコミュニティを維持、ステップアップする事は有意義だと思います。助成金を事務所代に当てるには多少の疑問が残りますが、出入り自由な公園にコミュニティスペースが有る事は名案だと思います。



group.5 ホテルが飛ぶ蛭橋を めざして！ 本宮川の水辺と蛭の会

7つの町内会が参加している旭西部公民館と共同で、旭にある本宮川をフィールドとして活動を展開。本宮川は市街地では珍しく貴重・希少なホテルの生息地。が、雨が降ると水がなくなる、水無川でもある。我々は、川の清掃をしたり、蛭の生育場所を作るため岸辺に植栽をしたりしている。ホテルの幼虫を飼育するといった、種を増やす活動もしている。ホテルの生育地にある町内会のゴミステーションに掲示板を作成し活動などを知らせているが、みなさんよく見てくれて反応がよい。今回は関係町内会と一緒に、掲示板を沿線にあと4基設置したい。そこから地域の交流を図り、地域住民と共に考えていく会にしていきたい。

Q&A
Q: 活動の内容・趣旨とも賛同するが、看板の制作費に助成する印象が強い。看板というのはそんなに重要なものか。
A: 自分たちのような会の場合、やりたいことだけをやりたいがちなため、それを客観的に評価してもらうための反応が欲しい。地域の人にやっていることを知らせていかなければ、自己満足に終わる。それをふまえて、何が足りないか・今後何をしていくかを考える活動の基本材料として、看板は大変重要だと考える。
Q: 本宮川には用水路といった本来の機能もある。雨が降ると水がなくなるのはそのため。川を管理している側との話し合いはどのようにしているのか。また、掲示板を設置する事の同意を、沿線町内会から得ているのか。
A: 高知市役所等の関係部署や関係団体・町内会と共に、近々会を開く予定。掲示板設置同意も、もちろん得ている。

運営委員(木村)
街中に蛭が……すばらしいことだと思います。是非実現できるように祈っています。ただ、まちづくりには立場や、考え方の違いはつきものです。肝心なのはその先を、お互いが尊重しあい、話し合いでどうするかを考えることだと思います。あせらず頑張ってください。



group.2 炭焼き情報ネット館 高神炭焼塾

昨年の9月から城山の中腹で炭焼きをし、その炭でいろんな物を焼いて食べ、愉快的仲間作りをしてきた。山のまわりには神社・長曾我部時代の城跡などが残っていたり、原生林や楠の木もある。城への遊歩道もあり、ここを整備すれば里山として自然とのふれあいの場がつけられるのではないかと考えた。そこで単なる炭焼きだけでなく、いろんな方と話し合ったり、情報を集めたり、炭焼きの伝統をみんなに伝えていくことができる秘密基地「いろり付小屋」炭焼き情報ネット館」を作りたい。

Q&A
Q: 大人の秘密基地とは、なかなか楽しい。拠点の必要性は、まちづくりには重要な要素だが、地元にある公民館を中心としたものではなく、基地が必要な理由を教えてください。
A: 公民館というのは、作られた既成の建物だ。日常生活の中にあるもので、あまり楽しみがない。炭焼きなどを身近なところで楽しむには、基地が一番ではないかと思う。そこにはノスタルジアと、ぞくぞくとした何かがある。それが炭焼きや、里山作りの基本になってくると思うので、身近な所でないにだめだと判断した。
Q: いろりで炭火焼きをする以外の情報ネット館の機能は。
A: 龍馬関連の木工品や竹細工、道具等を展示する。

運営委員(田岡)
地域の方を中心とした里山保全のあり方を考える上で参考になります。自分たちのグループだけの活動に留まらず、地域の学校や地元の方を巻き込んだ幅広い活動へ発展させて下さい。今後の活動に期待しています。



group.3 橋本知事と平井雷太氏の公開 インタビュー「大人が学習者であり つづけることで子どもたちは 多くのことを学ぶ」 はっぴーねっと

2年半前に行った平井雷太さんの教えない教育の交流会をきっかけに、大人が学ぶ場、子どもが学ぶ場を考えていこうと作り上げた。地域で大人が安心して語れる場、子どもたちに関わる遊び場や出会いの場を作っていこうと、活動は月一回のミーティング・年3回の講座や講演会・通信の発行などを行っている。今回、橋本知事と平井雷太さんの公開インタビューを開催し、ビデオを制作したい。講演会では、行政と市民をつなげたいという思いがある。このビデオを、公共の場所・図書館や学校などに無料で配ることで、行政と市民をつなげる役割ができればと思っている。

Q&A
Q: 知事と平井氏の対談が、どのように市民やまちづくりにつながるのか。
A: 最初の1時間は、橋本知事と平井氏の2人が、30分ずつ互いにインタビューをし、それぞれの話をどんどん掘り下げて聞いていくという形式でやる。次に、市民がその話を受けて2人に質問をすることでつながりを持ちたい。以前に実施した時に、行政の人から市民の直接の声を聞く時間を持つことは大変いいという意見があった。そういう接点を持つことは、子どもたちのこれからのつながると思う。

運営委員(海老塚)
教育に関する講演会とまちづくりとの関連性を問う意見もありました。が、子育てや教育の悩みを持つ者どうしが課題を共有するとき、市民の目線に立った教育改革につながるかも。今後、さまざまなアプローチをする他の団体などとの接点を増やしていけば、平井氏の教育メソッドに依りつつも「高知方式」とも呼ぶうるものに発展していくのでは、という期待をもちました。



group.6 ぱらっとうち(公共掲示板) あなたの書き込み応援します！ 特定非営利活動法人 ハート・リンク・コミュニティ

活動テーマは「あなたの書き込み応援します」。書き込むというのはインターネットの掲示板システムのこと。利用の仕方が分からない人・最初の一步が踏み出せない人たちを応援する。ビジュアルな教材を元に専門的な講師による講習会を実施していく。それにより、県がすすめている9月1日からの公共掲示板「ぱらっとうち」の利用促進効果が得られ、また、リアルタイムな災害情報を発信することもできる。県・市等の行政施策への幅広い意見・思いつきを発信することで、行政に積極的なヒントとなる。自分の思いを主体的に発信し、それに反応が返ってくることで、新しい発見を感じて欲しい。

Q&A
Q: この活動に対して県はどのようにかわるのか。
A: 県は、使いやすいシステム作りを重点的に予算をとって進めている。私たちが委員として参加しているが、ほとんど手弁当で、企画・システム設計をしている。これからすすめていく普及方法については、残念ながら今のところ予算措置がない。もともとこのわれわれの設立理念がなかった活動であるので、自分たちでやっていこうと思ひ応募した。

運営委員(半田)
情報化社会が発展する中で情報格差を減らしていこうという取り組みは、今後ますます必要になってくると思われます。取り組みの中で、情報技術を持つ学生や団体との連携を図ることですので、ネットワーク化がすすめた今後の継続した取り組みを期待しています。



group.7 明日のための キャリア創造プログラム 特定非営利活動法人 キャリアコンサルタント協会

社会情勢が非常に厳しくなっている現在、雇用情勢の急激な変化に伴い、市民のみならずもやむなく職を失ったり転職をせざるをえなかったりということがあつた。我々は個人のキャリアの継続・推進をサポートしていく、個人の実践的能力を支援する専門家の集団。キャリアコンサルタント、ファイナンシャルプランナー、メンタルヘルスの専門分野のスタッフがおり、それぞれの専門家が力を合わせ、その相乗効果を利用することによってキャリア創造・形成をしていく。

Q&A
Q: かなり事業規模が大きいですが、今後、来年・さ来年の事業予定と財源計画は。
A: 7月1日にNPO法人認証手続き申請をしたばかりで、まだ一般の方には、海のものとも山のものとも分からない団体かもしれない。実績がないので資金援助には苦労している。今年実績をあげ、重要性を分かってもらえれば、何らかの関係機関から委託事業や協賛の声がかかってくると思うので、来年・さ来年はそういうものを中心に行いたい。

運営委員(藤塚)
まちづくりは人づくりといわれるが、それはまちづくり意識の高い人材を育成すること。当団体の応募事業の目的・効果・内容は他地域においても評価されるであろうが、高知市におけるまちづくりという観点を意識してもらいたいです。



|group.8|

高齢者の介護予防・痴呆予防の為に「いきいき生活とゆうゆう菜園」

NPO法人
訪問理美容ネットワークゆうゆう

介護が必要な方や身障者の自宅に訪問理容しようと、3年前から高知県の理美容組合が主体になって設立。訪問理美容の活動の中から、高齢者の介護・痴呆予防のための家庭菜園を提案。ねらいは、閉じこもりがちな高齢者を屋外に連れ出し、感動のあるいきいきした生活をしてもらうこと。また、休耕地を活用し、雑草繁殖を軽減したり運用利益をもたらずこと。それにより、自分たちで育てた新鮮な野菜を食べる満足感と、近隣とのコミュニケーションの活性化が図れるのではないかと。また、「ファーマーパーク」として、家族が車で家庭菜園に来て、収穫し、食事をして一日楽しく過ごせる自然の公園ができればいいと思う。

Q&A
Q: 理美容師さんが菜園を思いついた、いきさつを聞きたい。
A: 痴呆の進んだ方でも、髪を切る間は何をされているか分かっているように、鏡の前でじっとしていらっしやる、口紅を塗ると一日中喜んでいらっしやう。こういった感動を与えることは高齢者にとっていいのではないかと思つた。感動を与える次のことという、食ではないか、自分でつくったものを自分で食べることに感動があるのではと思つた。

運営委員(堀)
実体験を通しての着目案には、説得力があり、同感いたします。ボランティアを通して、高齢になっても衣食住を基本に生活する事、特に食を自ら生産する事に感動があり、会話が生まれ、元気に長生き出来るのだと思います。



|group.9|

第5回三里まつり ～三里の防災～

三里まつり実行委員会

実行委員会は、三里まつりを通じて住みよい地域づくりを目指していこうと、高知女子大池キャンパスの学生・教職員・地元有志によって5年前に立ち上げた。今年のテーマは三里の防災。三里地区は南海地震での津波被害を真っ先に受ける地区。今を生きている私たちができることは何かと考えたとき、地域ぐるみの防災意識の高揚が必要だと考えた。三里まつりは1日だけのイベントだが、地区内外から6000人あまりの客が来る。今回は防災漫才や防災キャラクターによる着ぐるみショーなど、楽しみながらの防災教育を企画している。

Q&A
Q: 予算の中身で、次期繰越金が今回の助成金の30万をそっくり繰り越すだけのものを予定されているが。
A: 繰越金は三里まつりの立ち上げの時に県の助成で200万いただいたため、それを食いつぶしながら過去4回やってきた。今年度の計画では、今回のファンの助成金がもらえないと繰越金はすべてなくなる。これからの資金繰りに関しては、こういった助成があればどんどん申し込みしていきたい。

運営委員(玖波井)
たくさんノウハウを持っている、力のある団体です。一歩前というより、すでに三歩以上も前を歩いています。助成金を上回る繰越金があるという事実は、少し不利な影響を与えたかもしれませんが、イベント化しているのも気になりました。



|group.12|

地域の未利用地(障害者施設空地)を活用した機能回復、バリアフリー、循環体験の三位一体農園整備事業

NPO法人 ゆうきりサイクル高知

環境農園作りに取り組んでいる。環境農園というのは、生ゴミを堆肥にして野菜を作ってそれを食べる、循環を体験する農園。高知市池に新しくできた、障害者施設「アドレス高知」の敷地に環境農園を作りたい。生ゴミを集め、それを堆肥にし農園を作ることにより入所している障害者の方々の機能回復訓練につながる。地域の三里小学校・女子大・地域住民の方々との交流、バリアフリー効果を期待する。つまり、機能回復訓練・バリアフリー・循環体験を三位一体で効果を期待できる。助成申請については、更地なので公共用の残土を農園予定地に運ぶための軽車両の購入、園芸療法、ニュースの作成等にしたい。

Q&A
Q: 支出内訳を見ると、この助成金はそっくり軽トラ購入代として使用されるような印象がある。
A: 今回の一番の目的は、更地に土を入れること。トラックは通常60～70万円かかるが、中古だと20万円程度で買える。最低価格だと思つた。軽トラだと土の運搬に大変な時間と労力がかかるが、それは無償で行う。

運営委員(藤塚)
農園として未利用地を活用し、体の不自由な方の機能回復に役立て、地域との交流を深めるといふ当団体の応募事業の目的や効果は高く評価されます。ただし、助成金の主な使途が車両購入である点については検討の余地があります。



|group.13|

YAブックガイド『よんどく!?』増補改訂版作成出版

特定非営利活動法人
高知こどもの図書館

1999年12月に日本で最初に誕生した、NPOが運営する民間の図書館。図書館活動からまちの活性化・まちづくりをすすめていきたい。昨年度、子ども夢基金の助成をもらって中・高校生たちに今読んで欲しい約300冊の本のブックガイドを1000部作り、県内の中・高校、図書館などの関連施設、約400件に無料配布し、残部を販売した。その後いろんな所から反響を得、大学・高校・中学校からも、ぜひこれを図書館活動のツールとして使いたいという声をもらっている。しかし、先月末ですべて完売。まだまだこれを地域の図書館作りに使いたいという方がいるので、ぜひとも増刷したい。

Q&A
Q: 普段活字を見ない生徒が見やすい、見なくなるような内容にはならないか。
A: そのようなものを作ったと思つているのだが…。母親、子ども向けのブックガイドはたくさんあるが、中高生向けにはないので、まずは彼らのためのガイド作りに取り組みたい。

運営委員(増田)
子ども達の活字離れが急増している中で、本の面白さや必要性を真正面から取り組んでいる姿勢を感じました。そして、これからのまちづくりに必要な人材を、読書を通じて育成していく取り組みは可能性を感じます。



|group.10|

スポーツ フェスタ ～手をつなごう～

きよびっず

高知大学の学生でつくったグループ。「スポーツ フェスタ～手をつなごう～」という、高齢者と児童を対象とした運動会を開催したい。高知県の統計によると、一人暮らしや施設に入る老人が増加しており、老人が地域で児童とふれあいを持つ機会が減っている。また、子どもたちも核家族化により従来幼少期に得られる祖父母からの道徳なり教育が受けられない状況にある。そういった子どもと老人のふれあいの希薄化が、この運動会を通じて解消されればいいと思っている。新しい運動会の形を提唱して、みんなで地域ぐるみで活動できる何かを作っていきたい。

Q&A
Q: この事業のためにグループを結成し、運動会をするという発想は深く考えずにすぐ思いついたとのことだが、なぜまちづくりははじめの一歩「コースではなく「まちづくり一歩前へ」コースに応募したのか。
A: 大会自体に資金がかかるし、それが延々と地域的につながって何回もやっていくためには、最初に大きいことをした方がよいと思うので、ある程度のお金が必要だった。

運営委員(増田)
これからのまちづくりには、若い力が必要です。まずは、漠然と活動をするのではなく、地域とのコミュニケーションを通して、「今、何が足りないのか?」そこから、自分たちに出ることを見つけ出してみよう。



|group.11|

設立10周年記念事業 「できる時に、できることを、無理せず、楽しく」

特定非営利活動法人 地域サポートの会
さわやか高知

452名の会員。「できる時に、できることを、無理せず、楽しく」を合言葉に、助け合い支え合える地域社会・高知市を目指して平成6年に設立。おもに高齢者・身障者の在宅生活を支援してきた。介護保険の枠外サービスだけをやっている。今年はちょうど設立10周年の節目なので、記念行事をやるかと計画している。今回は、介護をテーマに若手の女性講師に、さわやか寄席をやってもらう。高知市出身でもある彼女が頑張っていることを知り、講話を依頼した。子育てをテーマとした企画もしたい。

Q&A
Q: 寄席についてもう少し詳しくおしえて欲しい。
A: この女性講師は、養護学校の卒業生で自閉症だった。そんな方がはなし家になるのは大変な事だと思う。記念行事にはその部分を盛り込んだものになりたいという思いがある。

運営委員(半田)
地域の助け合い活動をすすめる地道で継続的な活動に敬意を表します。今回、10周年を迎えるのにあたり、少子・高齢化に地域が対応していくための市民意識の啓発と人材確保、ネットワークの広がり期待しています。



|group.14|

はりまや橋復活再生「ごりやく物語」の作成(基本構想案)

NPO法人
高知環境文化21

はりまや橋界隈の賑わいを取り戻す方法として、純真お馬の物語を漫画的発想で解決することはできないだろうか考えた。漫画的というのは、漫画が持つ力。つまり漫画の作品に代表される表現・その作品を作る漫画的発想・それを作る漫画家という人間、の3つによってできていると思う。漫画家の発想・漫画的発想を使って、漫画家のみならず、地元のみならず、観光客のみならずの力を借りて、南国土佐らしい、明るい恋のごりやく物語を作ることに取り組みたい。また、象徴としての像も作りたい。はりまや橋ごりやく物語祭りも考えられる。

Q&A
Q: はりまや商店街は今いろいろ頑張っているが、そちらと密にして活動することは考えられるか。
A: 当然考えている。ただ、商店街だけで考えるのではなく、はりまや橋とは何かという意味を作るところから始めたいと思う。

運営委員(木村)
本市のみならず県全体の「顔」として中心市街地の活性化は重要な課題だと思います。高知の優れた所産である漫画文化を生かし、活性化に繋げようとする企画は大変素晴らしいことだと思います。重要な行政課題でもあるだけに行政計画との整合性を図ることも必要だと考えます。



|group.15|

高知の街で、あの「劇団黒テント」をみよう! (高知演劇ネットワーク・演会による劇団黒テント招へい事業)

高知演劇ネットワーク・演会

2001年1月に、高知における芸術・文化としての演劇を充実させ、より豊かに発展させていこうという目的で発足した団体。「劇団黒テント」は今年35年目を迎える歴史ある劇団で、海外でも活動の幅を広め、日本の現代演劇をリードする劇団のうちのひとつ。こういった劇団の作品は、なかなか高知で見ることができない。招へい活動を通して、高知の演劇人・芝居する人間の作品作りに生かしていくことや、すぐれた作品を広く高知市民のみなさんにも見ていただいて、より豊かな感受性を育ててもらい、豊かで活気のあるまちづくりに寄与したいと思っている。

Q&A
Q: せっかくこういう人たちが来るのであれば、1回きりの公演ではなく、例えば前後にワークショップのようなものを行って、一般の人にさらに演劇というものを知ってもらおうといった工夫は。
A: 今回のこの「黒テント」に限っては、旅巡業ということもあり、日程的にワークショップ等は行われていないが、時折メンバーの方が高知に来られる。その際にはちょっとした席を設けて、交流会をやっている。

運営委員(田岡)
今回選にもれましたが、今後の活動に期待しているグループの一つです。厳しい経済情勢もあり企業協賛も難しいとのことでしたが、なんとか知恵を絞って演劇文化の発信を続けて欲しいと思います。

公開審査会参加者アンケート結果

問1 回答者年代

30代(4)、40代(13)、50代(8)

問2 今日の立場は？

応募団体(14) 市民(8) 行政職員(2)
その他(全国地域リーダー養成塾生:1)

問3 公開審査会をどう思いますか。

良い(24)

【理由】

公明正大。 決定が明確。 納得できる。

公正で良い。 公平であるように思う。

お互いに高知の各分野の活動も知れる。

せっかく共有できた(あるいは、未消化に終わった)想いを話し合える場があればいいとおもいました。

後日発表よりも楽しみが大きい。

非公開だと、なぜ“落選”したのかがわからないところが応募者の心にあると思うので。

選ばれても選ばれなくてもそのいきさつを知りたいから。

まちづくりの取組みが行政レベルでなく、市民の発想で開かれるという点でいろいろな考えが聞ける。

運営委員の方々の考えを知ることが出来る。

プレゼンにおける不足を補える。

いろんな事例を見ることが出来る(自分たちと比べることが出来る)。

落選しても、その理由と次へのステップが明確になることが良い。

良くない(1)

【理由】

初回の内容としては甚だ不十分。打ち合わせ不足。マスコミ等も誰一人来てなく、事前のPRが足りない。会場内での議論がもっと取り上げてもらうよう工夫が必要で、応募者に対してあまりにも非人道的、失礼極まる発言が多かった。

問4 今日の審査方法をどう思いますか。

良い(16)

【理由】

全体としては良いと思うが、部分的に良くない所もある。

経過がよくわかる。安心。フェア。情報公開。質問の時間をフリーにしては...。

議論が有った。 時間(質疑)が少ない。

各分野からの委員による見方を実際に知ることが出来、自分の活動につなげる事も出来る。

他の団体の良さ、プレゼンのやり方等、勉強になると思う。再度コメントによっては選んでもらう可能性も出てくる。

審査の対象がどういうものかよくわかった。

良いと思うが、質問の時間を広げてほしい。

初めての体験でしたが、勉強になりました。

採否の理由がわかってよい。否となっても自分の企画がこの助成金になじまないものだということが判ったので、再度申請するという無駄がなくて良い。

委員長のはっきりした態度が良かった。ただし、議論、質疑応答の時間取りが？

良くない(5)

【理由】

3分の発表時間は少なすぎる。

今回の審査で問題となったのは、まちづくりファンドの定義。何に対して助成するのかという基準が不明。参加団体にそれぞれの思惑があり、明確にすべき。

全部に点をつけるのではなく、持ち点を定めて優れたものに点を入れる方式の方が良いと思いました。

プレゼンがメインだと思ったのですが、聞いてみると、何か議論ばかりが白熱しているように見えた。次回はもっとプレゼンがメインの運営をしてもらいたい。

審査員の質が極めて良くない。応募書類を明らかに読んでないのが何える。知らない事も調べてもいないのが明らかである。

自由記述

運営委員の中に、地域のまちづくりにたずさわっている人がいましたか。まちづくりファンドの方向性を心配します。まちづくり活動がわからない応募者が多かったように思う。

助成事業に採択しなかったところに対して、明確な、不採択理由書を送付し、きちんと納得するように十分な説明を行うこと。それが公開審査会に期待した応募団体に対する誠意である。

公開審査の情報開示の透明性はとてもあるが、反面、その審査方法の難しさも感じた。例えば、点数の低い団体のこだわりと委員の見解のズレで時間がたってしまう点等。

“まちづくり”って何だろうと改めて考える機会になりました。たとえ助成にいらなくても、それぞれの熱意がくみとられる活動の力になるような運営を市民みんなでつくりあげていきたいと思いました。はじめの一歩を踏み出した高知市の皆様、委員のみなさま、おつかれ様でした。

自分のまちづくりのとらえ方では、今日のエントリーナンバー 6,7,13,14,15は違っているのではと思われる...

応募者が活動を説明している間、後席のお茶コーナーの音(ビニール袋をあける音や小声など)がうるさく感じた。

これからも続けてください。

参加者は皆、自分達の活動内容に自信と熱意を持っているので、興奮してしまうのはわかりますが、委員を攻めるのは違うなと感じました。最後の方は、予定総額に達してないから出しちゃえという感じがして、話し合いは何だったのだろうか?と思いました。助成の趣旨を明確にして、切るべき所は切ると言う姿勢を貫いた方が良かったのではないのでしょうか?

一部の申請団体の他の団体への配慮がない。自分たちの発表が終わればそれで終わり。

個人的にはNPO団体はまちづくりファンドの趣旨とは整合性が取れないのでは?

全員日頃から時間をつぎ込んで熱心に行動している人々です。その為、点数が少ない団体の方の無念さは理解できます。助成になじまないのではなく、自分の事業が否定されたような気になるでしょう。でも、あまりエキサイトして委員を攻撃するのはよくないことだと思います。こういう場になれていないので、第一回目の特徴がもしもありません。

申込者についてファンドの性格をよく説明された方がよいと思います。初回ということもあり、単に自分たちの活動に対する補助金制度と捉えている人が多いと感じました。

応募用紙の中に助成金に対する予算案が記載されると良いのでは?(使途が不明?)30万でたらない部分はどのようにするのか?

具体的な助成金の使い方の説明があまりなされてないように思える。資料が少ない。公開審査会なので、活動内容ばかりでなく、収支表等もあった方がいいのではないかと思います。書類選考を少し厳しくして、まちづくりに合うものかどうかを書類選考で見極めてもらいたい。

今回出席させて頂いて、運営方法の厳しさについて実感しました。また、ファンドの趣旨の理解度についての応募者間の差が大きいことに気づきました。中間活動の報告について、ぜひ聴いてみたいと思います。事務局のみなさん、おつかれさまでした。しかし、まだ第一歩です。これからもお互い頑張っていきたいと思います。

参加者の声

いろいろのアイデアや意見が刺激になって、参加してよかったと思う。

緊張したが、他の団体のことも聞けて、ワクワクしながら楽しめる会だと思った。3分びつたりで終わると思わなかったので、練習したように上手くはいかなかったが、すっかり気持ちよくなった。

やらなくっちゃ、やってつなげていきたい。来年、さ来年と輪を広げていきたい。

このような新しい試みのなかでするのは楽しかった。

自分たちの気持ちがかどまで通じたのか心配です。

伝えたいことが、あまり伝わってなかったようだ。

楽しみながらやりたい。今後もやっていけるパワーをもらえるのではないかなと思う。

他の団体のことも知って、審査も見られるから得るモノがある。

わきあいあいの中で審査しているので、開放的で良い。



時間厳守なので練習してきた。

同じような活動をしている団体と今後一緒にできたらと思う。

時間は短かったが、思いは伝わったと思う。

活動団体や地域の負担が少なくすむので、こういった公益性のあるファンドはよいと思う。

おもしろい。わくわくする。応募した方の熱心さが伝わってくる。



早く活動を始められるようにがんばりたい。

時間制限というプレッシャーで、思ったようにしゃべれなかった。

高知市の福祉に役立っていくように(助成金を)使っていきたい。

あたって砕けるという気持ちで参加しました。

地域からはじめてどんどん広げていきたい。

長

い間準備を進めてきた「公益信託高知市まちづくりファンド」がこのたびスタートし、二部門に合計二十の活動企画の応募がありました。そして、二〇〇三年八月二日(土)には公開審査会が開催され、十四の団体に助成が決定しました。

当日は、審査に予想以上の長い時間を費やしたため、運営委員長としてのごあいさつもできないまま終了してしまいました。そこで今回、若干の感想を述べさせていただきます。

まず、全体の印象ですが、高知市では非常に活発な市民活動が展開されているという感想を持ちました。それは、応募の数ばかりでなく、活動分野が歴史文化、福祉、自然環境、子ども、教育、芸術文化、情報技術、高齢者、防災、スポーツ、農業、演劇等かなりの広がりを持っていることからよくわかります。また、NPO法人が七団体(申請中も含めて)も応募してくださったという点も、第一回とはいえ、かなりレベルが高かったことに寄与していると思います。

またこれまで私が経験してきた他市の市民活動と違うのは、まずイベントやお祭りが多かったという点です。市民活動におけるイベントやお祭りは、多くの場合、日常的な市民活動の成果を発表し、人の輪を広げる機会と考えられます。したがって、今回のまちづくりファンドの助成にふさわしいかどうかは、その日常的な市民活動を抜きに考えられないわけです。年に数回だけのイベントやお祭りが中心の活動は、私としては慎重に判断したいと思いましたが、しかし全く逆に、この点が高知の地域性なのかもしれないという気持ちもありません。お祭り好きな高知の人ならではの市民活動、コミュニケーション

公開審査会を終えて

運営委員長 卯月盛夫

イ形成の方法論であるかもしれないので、この点は、今後の中間発表や最終発表において、再度みなさんと議論していきたいと思えます。

もう一点、他と違ったのは、助成金の使途に建物や掲示板等の建設や車両購入が目立った点です。確かに市民活動を継続的に進めていくには、拠点整備や車両等が必要ですが、一般的には三十万円を限度とする市民活動助成には、これまでこのような事例がなかったというのが実態です。この点も、今後議論していかねばならないと思います。

さらに、今後運営委員会として検討していかねばならない点もあります。「まちづくりはじめの一步コース」の内容と審査基準がそのひとつです。これは「まちづくり一步前へコース」の前提という意味で設定されましたが、これが妥当かどうかの判断がありそうです。また、出版に対する助成についても、他では出版助成部門を設けて、申請書類も変えているケースがありますので、高知においてのルールを検討する必要があります。

いずれにしても、審査する運営委員も応募した市民もまさにはじめの公開審査会でしたので、この他にも運営の課題および今後の資金拡大や寄付の課題等が山積していると思えます。しかし高知市の市民活動を活発にする仕組みとしてこのファンドは極めて有効なものである。「みんなのお金の使い途をみんなで考える」という原点を忘れずに、すこしずつ改善を重ねながら、高知方式と呼べるユニークなものを作っていくお手伝いをしたいと思います。そのために、私達運営委員は市民のみなさんの建設的で創造的な提案をおおいに期待していますので、何卒どうぞよろしくお願ひいたします。

まちづくりファンドは、皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設に当たり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社四国銀行
営業統括部 信託担当

〒780-8605
高知市南はりまや町1丁目1-1
電話：088-823-2111(代表)
088-871-2178(直通)
FAX：088-824-0431

高知市 市民活動 サポート センター

高知市が市民に利用してもらい、市民活動の輪を広げようと平成11年4月に設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO

高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催しておりますので、お気軽にご活用ください。

まって
ま-す!



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、中間発表会の後になります。

第一回まちづくりファンド 今後の予定

中間発表会・最終発表会はどなたでも参加することができます。助成を受けた団体間や関心のある方の交流の場としていきたいと思えます。お気軽にご参加ください。場所は高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

中間発表会
2004年1月24日(土) 午後1時~
最終発表会
2004年7月31日(土) 午後1時~
報告書提出
2004年8月31日(火)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL: 088 820 1540 FAX: 088 820 1665

E-mail: npokoch@sminkaigi.com URL: http://www.sminkaigi.com

r2100

PRINTED WITH
SOYINK

この印刷物は、環境に
優しい大豆インキを
使用しています。

古紙配合率100%再生紙を使用しています